

COVER STORY

●卷頭特集

# なぜ今、 渋沢栄一 なのか

渋澤 健  
朝倉祐介  
斎藤祐馬

FEATURE 2

## お金の話

投資・資産運用  
キャッシュレス  
QRコード決済  
山崎 元  
堀江貴文  
安田洋祐  
橋 玲

# NEWS PICKS

## Magazine

元祖  
イノベーター

Eiichi  
Shibusawa



Summer 2019

Vol.5

定価980円

2019年夏号

6月20日発行

第2巻 第3号

通巻5号

FEATURE 1

世界を  
変える

イノベーター

500

原点  
転機  
未来

ジム・ロジャーズ  
ムハマド・ユヌス  
ブリシラ・チャン  
中西宏明  
富山和彦  
星野佳路  
澤田秀雄  
宇野康秀  
ヨシダナギ  
高濱正伸  
宮内義彦  
高岡浩三  
堀場 厚  
稻葉善治  
松浦勝人  
佐山展生  
平野拓也  
千本倖生  
夏野 剛  
森川 亮満  
村井 満  
高田 明  
小山薰堂  
寺尾 玄  
小笹芳央  
  
新浪剛史  
三木谷浩史  
永守重信  
前田裕二  
中満 泉  
出雲 充  
高橋祥子  
田中良和  
鈴木 真  
田原總一朗  
のん  
遠山正道  
辻口博啓  
高島宗一郎  
羽鳥兼市  
出口治明  
村木厚子  
松井忠三  
宗次徳二  
天野 篤  
楠本修二郎  
松田公太  
高島郁夫  
藤倉 尚

# Masanobu Takahama

メシが食える魅力的な大人を育てたい

花まる学習会 代表

## 高濱正伸

「メシが食える魅力的な大人を育てたい」という思いから、小学校低学年の子どもを対象にした地域塾「花まる学習会」を1993年に立ち上げました。

従来、学習塾といえば、預かった子どもたちを偏差値の高い学校や大学に入れるのが役割であり、目標でした。

一方、花まる学習会は、読書と作文を通じた「思考力」と「学習意欲」の養成や、「野外体験」による情緒面での成長を掲げ、メシが食える大人になれるかどうかという訴えかけで勝負しました。

すると、多くのお母さんたちが私たちを支持してくれました。自分の子どもには魅力的な人になってほしい、たくましい人になってほしい、単に勉強ができるのではなく、頭がいい人になってほしい……。そんな思いを持つお母さんたちが、こぞって子どもたちを花まる学習会に連れてきてくれたのです。

そういう意味では、今日の花まる学習会があるのは、お母さんたちのおかげなんですね。

ただ、企業として成長していくことを考え

ると、同じことをやり続けていてはダメです。例えば、野外体験やオリジナル教材の『なぞべ～』などは他社にない花まる学習会の強みです。それでも現状に甘んじることなく、挑戦を続けていく必要があります。現在、「花まるラボ」が開発・運営している小学生向け思考センス育成アプリ「Think! Think!(シンクシンク)」はその1つです。

### 教育の機会均等を守る

こうした新しいことへの挑戦とともに、花まる学習会は学校教育の応援も続けています。お金がないから教育を受けるチャンスがないというのが、社会として一番罪深いことだと思うからです。

私自身の経験からいっても、お金のせいで自分がチャンスを得られないというときは、人を恨んでしまうのです。

忘れもしないバブル時代、牛乳配達の仕事をしていた時です。バブル時代ですから、新聞のチラシに販売価格1億円を下らないわゆる“億ション”が、ずらーっと並んでいるわけです。私は「何百年働いてもこのマンションを絶対買えない、おかしいじゃないか」と思い至りました。その時、「金持ちなんて死ねばいい。爆弾でも仕かけようか」と思いました。

能力があって、チャンスがない人がそう思うのは自然だと思います。逆に格差を埋める機会があれば、そこで頑張ろうかなと思える。つまり、格差を埋める手段としての教育は、本当に大切なことです。

中でもぜひ話しておきたいのが、福島県飯館村での取り組みです。飯館村は、東日本大震災の原発被災地で、住民の皆さんが帰村できない状態が続いている場所です。そのため小学校、中学校とも村から離れた

《未来》  
text by Atsushi Oda  
photo by Motoko Endo

高校生対象の塾講師をしていた高濱氏は、幼稚園児の保育をするアルバイトを経験し、子どもの教育を一生の仕事にすると決めた。



いかと地元の篤志家が集まる。

そうして地元の期待を背負った人は、大学卒業後に、役人などになって地域に貢献するため戻ってくる。かつてはそんな文化としての仕組みが確実にありました。今はこうした仕組みが失われ、逆に社会の格差が大きくなっている。だからこそ、教育の機会均等だけは絶対に守らなければいけない。

教育を生業にし、そのど真ん中にいるプレーヤーの1人として、塾の世界で磨き上げてきた仕組みやノウハウを学校教育にも提供して、どうぞ使ってくださいという形で応援していくつもりです。

実際、佐賀県武雄市で公立小学校の運営を手伝い始めました。官民一体型学校「武雄花まる学園」として、私たちが運営に関わっています。おかげさまで、市内の公立小学校11校とも全部、2020年までに武雄花まる学園指定校になることが決まりました。今、2~3校ずつ増やしているところです。

この武雄市の小学校のモデルを見て、いろいろな自治体の人が花まる学習会にたくさん来てくれました。少しづつ取り組めばと思っています。

もともと日本では、教育がそういう役割を果たしていました。貧しい家の子でも、頭がいいぞとなったら、よし、その地域の名門高校に通わせ、大学も旧帝国大学に進学させよう、そのための費用は出そうじゃな



累計50万部突破のオリジナル教材『なぞべ～』と、思考センス育成アプリ「Think! Think!」の画面。



Masanobu Takahama 1959年熊本県生まれ。東京大学大学院農学系研究科修士課程修了。「メシが食える大人の育成」を目指し、93年花まる学習会を設立。95年には進学塾のスクールFCを設立。算数オリンピック委員会及び日本棋院理事も務める。障害児の学習指導などの相談を受けるNPO法人子育て応援隊むぎくみを運営。教育や子育てに関する著書多数。



場所にありましたが、避難指示が解除され、18年4月から小中学校などが村内の1ヵ所にまとまって戻ってくることになったのです。

そこで花まる学習会は飯館村と提携し、学校の運営を手伝うことになりました。花まる学習会から派遣している中学校の教員の1人は、飯館村に常駐してもう10ヵ月くらいになります。

300人近くいる子どものうち、戻ってくるのは当初30人くらいの見込みだったところ、私たちが手伝うとわかつてから90人くらいまで増えました。

教育で復興を助ける。こうしたことにも常に積極的に取り組んでいきたいですね。

### 「2つの力」を鍛える

花まる学習会を設立して最初の3年間は、挫折の繰り返しでした。大学院の仲間と一緒に生徒20人の受け入れから始め、問題作りや授業などに必死で取り組みました。

ただ、いかんせんお金の計算を何もしていらない。講師の入件費ばかり増えて、それ

らを借金で貰い、その借金がどんどん増えていく状態でした。

それに幼児のことを全然わかっていないませんでした。高校生相手なら丁寧に1つずつ教えれば、できなかった問題を解けるようになります。片や幼児は群れて動くし、理屈ではなく、楽しく働きかけないと動かない。そんな基本的な事柄も、実際に花まる学習会を立ち上げてから学んでいました。

とはいっても、私は絶対にうまくいくと思っていた。「メシが食える魅力的な大人を育てる」という花まる学習会の目指すところは、必ず多くの人に受け入れられると確信していました。

メシが食える大人になるために大切なのは、まず思考力です。思考する力が高い、つまり頭がいいとは、第1に見えないものが見えること。例えば、図形でいえば補助線や立体の裏側、さらには人の言っていることの要点や本質といった目に見えないものが見える力です。

そして第2に詰める力。集中した読解で

ある精読力や論理力、そして最後まであきらめずにやりきる力などです。

教材の1つ、『なぞべ～』はまさにこの2つの力を鍛えるために開発したものです。この2つの力がいかに大切か。でも、それを理解するライバルは1人もいなかった。だから負ける気が少しもしなかったのです。

とはいっても、会社としてうまくいくと確信が持てるようになってきたのは、設立7年目くらいになってからです。それまではなかなか人材が定着せず大変でしたが、この頃になってようやく、できる人材がそろい、組織が整ってきた。

それからはずっと上り調子です。苦しい時期もありましたが、おかげさまで今では全国展開するまでに成長しました。花まる学習会でやってきたことは間違いではなかった。今、そう自信を持って言えます。 N

### Go to NewsPicks

本記事はNewsPicks「イノベーターズ・ライフ」2018年1月に掲載。高濱氏の半生全19話はこちら。

